

2022 年度北海道卓球選手権大会（マスターズの部）

相互審判・敗者審判の手引き

1. 競技開始前

- ・選手確認 ゼッケン着用の確認と共に、対戦表との照合。
- ・ユニフォーム確認 (公財)日本卓球協会公認用具指定業者のもので公認ワッペンが付いているか。主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色であるか。
- ・ラケット確認 ラケットは JTTA、ラバーは JTTA か ITTF から公認されているか。ラバーのはみ出しや欠損はないか、平坦であるか 等。
- ・ボール選択 要求が異なる場合は、拳により決定。
- ・サービス・レシーブ・エンド選択の拳
- ・開始前の練習時間計測（2分以内）。

2. 競技中

- ・開始時の宣告 ファーストゲーム ○○ トゥ サーブ ラブオール（ボールは宣告の前にサーバーに渡す）
- ・時間計測 1 ゲーム毎に計測する。開始後 10 分経過した場合は促進ルールが適用され、そのマッチ終了まで継続する。但し、10 分経過時に双方の得点合計が 18 点（9-9、10-8）以上の場合には適用されない。促進ルール適用の場合は、本部にストロークカウンターを要請する。
- ・カウントコール ポイント決定後直ちに宣告（選手に聞こえるように）。
- ・レット・ストップ 選手に聞こえるように宣告し、同時に右手を頭上に高く上げる。
- ・競技の継続性を促す タオル使用時やポイントの合間が長引かないようにする。
- ・サービス確認 オープンハンドであるか、台より下がっていないか、16 cm 以上ほぼ真上に投げ上げているか、落下途中で打球しているか、打球点が台上でないか、レシーバーから見えているか、等。
- ・ゲーム終了宣告 (ポイントジェスチャーと共に)11-X。
ゲーム トゥ ○○（勝者側に腕を伸ばす）。
- ・ゲーム間の計測 1分以内。超過する前にタイム宣告。
- ・マッチ終了宣告 (ポイントジェスチャーと共に)11-X。
ゲーム アンド マッチ トゥ ○○。（勝者側に腕を伸ばす）。

【ハンドシグナル】

1. 1人審判の場合

カウント器を持ちながらの場合、開始時のサーバーと主にレット、必要なときにサーバーや勝者。

2. 2人審判の場合

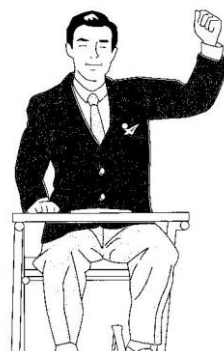
主審～開始時のサーバー、ポイント、レット、勝者など。

副審～ネット、ストップ、副審側のサイドの判定。

【主審ポイント】

【主審レット】

【副審ネット・ストップ】



【時間計測】 練習 1 分、ゲーム 10 分、ゲーム間 1 分